J. Rakuno Gakuen Univ., 22 (2) : 115～123 (1998)

道内6大学学生に対する『自然意識調査』のまとめ

岩　井　　洋・山　村　悦　夫

Student Awareness of Nature as Shown by Questionnaire at Six Universities in Hokkaido

Hiroshi IWAI and Etsuo YAMAMURA

(August 1997)

1．調査の目的

人間が人間という概念を抱く時，その対比概念となるのは自然という言葉である。人間と基本的に異質なものたる自然の中で，人間は自然の資源を加工消費しながら，自然の力や存在を意識的にあるいは無意識的に感じ，またその存在を認めつつ生活している。人間と人間社会とは，人間的なものと，そして同時により根源的な係わりとして，自然的なものからも形成されていると言ってよいのである。

本調査は，意識的無意識的に常にその存在を人間が認めている自然と，人間個々人との有機的精神的関係，つまりは，自然環境を主体的に受け止め，主体的に係わり営みを行う人間と自然との精神的絆の実態と，個々人の自然に対する係わりの仕方や質的関係がいかなる要因のもとで培われ，異なった内実を持つようになったかを分析せんとするものである。

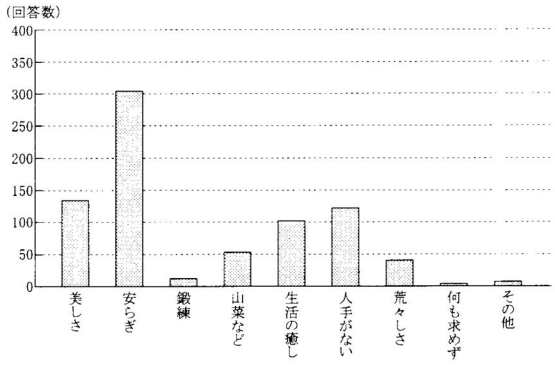
自然についての意識を探ること，つまり，その実態と形成要因を分析し，人間の自然に対する意識構造を明らかにすることは，環境を主体的に担い，そして環境のあり方を十全に受け止めて営みを行う人間，つまり環境の最終的な精神的受信者たる人間が形成する地域環境における，豊かな環境創造の一助になると考える。そしてこの地域環境創造が，本調査の最終目的である。そのためこの研究は長期的スパンの中での継続的研究となるものである。将来の社会の主体的な中核的担い手となる現在の大学生達のこうした意識構造を今の時点で解明することによって，将来的な地域環境政策が有効となり，展望が開けてくると確信するものである。

2．調査の方法

この調査（調査内容については後ろにて掲載）は，1996年夏から秋にかけて全道的に行われたものである。既述したように，将来的な地域環境政策への展望の中で，将来社会の中核として活躍し，社会を中心的に担うようになるであろう社会層たる学生を将来的指標として対象とした。純粋な自然との接触の可能性が他地域に比して多い北海道の学生を対象に，地域的に固定しないように，札幌，江別，岩見沢，旭川，北見など道内6大学短大学生の主として1・2年生に対して行った。各大学の諸先生に委託して，それらの先生が担当する平常講義の終了間際の時間を使って行っていただいた。各講義に出席していた学生全員が行い，サンプル総数は479となった。

3．個別的な結果

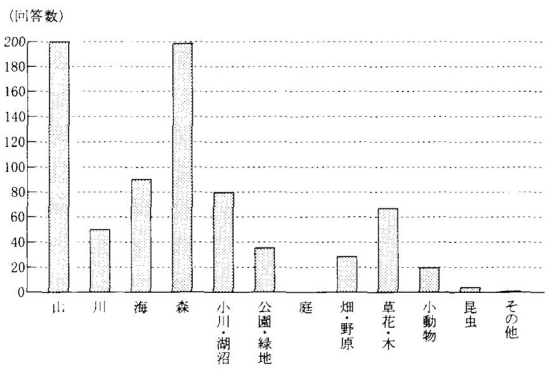
質問2　「あなたは自然環境に対して特に何を求めますか（二つ以内回答）」



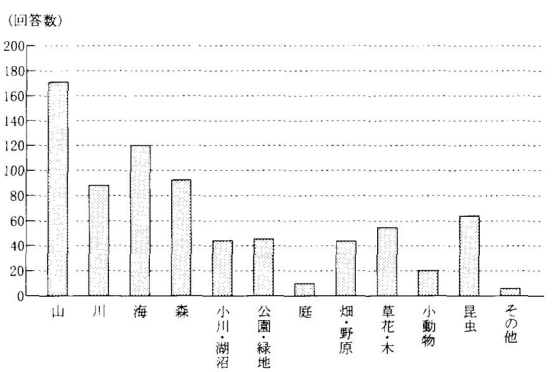
教養科（独語研究室）
Department of General Education (German), Rakuno Gakuen University, Ebetsu, Hokkaido 069, Japan.

多くの者は,「心の安らぎ，人間の手が入っていない，日常生活の癒し」など，日常生活からの癒しを自然の中に求めている。これは，自然が人間的なものとは異なり，人間の力では得られぬ人間を越えた力を持っているということであろう。そして，これこそが,生産資源としての価値とは別な,人間にとってくみ尽くし得ない自然の価値，自然の無限に優れた価値と言えよう。

質問6　「あなたが現在自然という言葉を意識し,自然らしさを実感するのは特にどれですか（二つ以内回答）」

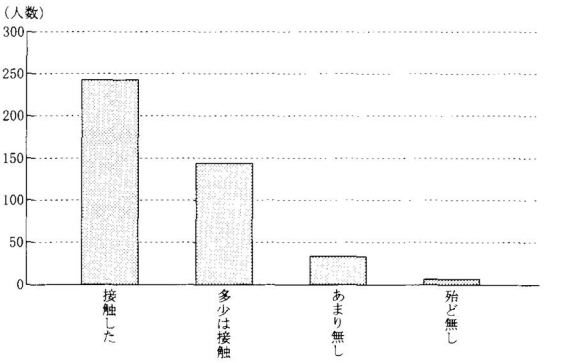


質問9　「あなたが子供時代に触れて印象深かった自然は特にどれですか（二つ以内回答）」

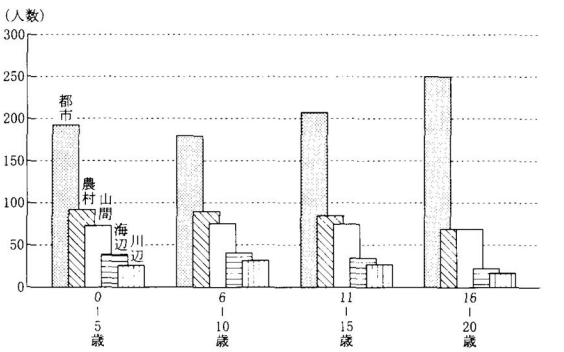


日本の場合平地林は非常に少なく，森と山とは感覚的に一体的に捉えられている。質問6では，回答数776件のうち山は199件，森は198件であり，合わせると全体の51%，質問9の回答753件のうち山は171件，森は91件で合わせて全体の38%を占め，山と森を好む率が最も高い。規模の大きな自然環境が自然らしさを感じさせるという上で評価が高い。

質問7　「あなたはあなたの子供時代に自然に触れることが出来たと思いますか（一つ回答）」

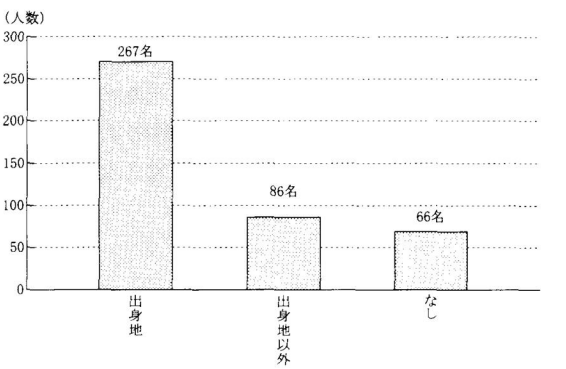


質問8　「あなたがこれまでに生活した場所の,主たる自然環境についてお答えください（一つずつ回答）」



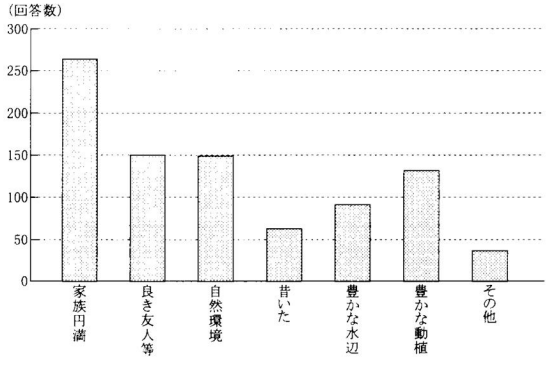
年齢が高くなるに伴って都市部へと集中する傾向がある。

質問11　「あなたは〝故郷〟という言葉から，具体的にどの地を連想されますか。あなたが生活したことのある土地の中からお答えください（一つ回答）」



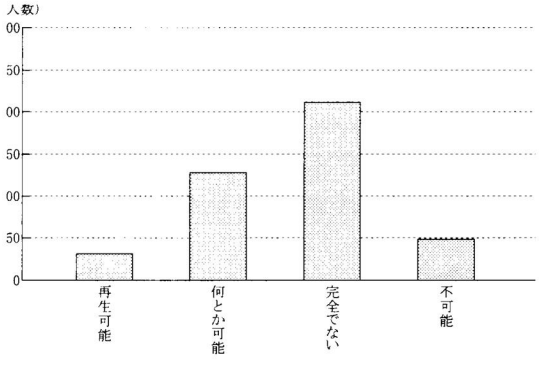
回答数419のうち66名が，故郷はないと答えた。故郷とは，後述するように，その土地の自然環境と人間関係より育まれた精神的実体であるが，しかしそれを持ち得ない若者が16%も存在するのである。人間と土地・自然との繋がりが失われてきていると判断される。

質問12「あなたにとって〝ふる里〟に欠かせないものは何ですか（三つ以内回答）」



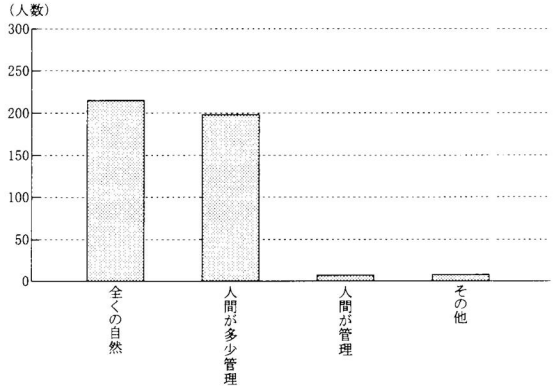
「昔いたことがある」，あるいは「その他」がきわめて少なく，その土地の自然の豊さと，そこでの人間関係の睦まじさという，自然環境と人間関係の二つが故郷というイメージを構成していると判断される。この2つの因子同士の相関関係は明らかではないが。

質問13「あなたは自然は一度失われても再生させることが可能だと思いますか（一つ回答）」



一度失われた自然の再生については概ね否定的である。自然の不可逆性への強い意識がある。代替的疑似的自然物に対する強い違和感があると判断される。

質問20「あなたにとってどのような自然状態が好ましいですか（一つ回答）」



自然のより純粋な状態が好まれる一方，人工的なもの，人間による管理に対しては評価はきわめて低い。若者の間にエコロジカルな意識（より純粋な自然らしさを求める意識）が広がっていると判断される。

4．分　　析

全質問25項目中特に8項目についてクロス集計（λ^2検定）を行って分析した。

Ⅰ．個人の自然についてのイメージと出身地の関係についての分析

(1) 質問6（自然という言葉から連想するもの）と質問8（これまでに生活した場所の自然環境）との関連

	畑・野原	山	海	川
郡部出身者	18	98	49	27
都市出身者	6	76	66	25

$\lambda^2=5.99<$自由度3　$\lambda^2=7.815$（危険率5%）
$\lambda^2=11.345$（危険率1%）

有意差は認められなかった。

かつて生活していた地域の自然環境に対する感度が，その地域出身者において異なるかどうかを調べたものである。しかし，過去に生活した場所的経験的な自然環境に対する強い精神的関連性は認められなかった。

(2) 質問7（子供時代における自然との触れ合い）と質問20（好ましい自然の状態）

	全くの自然状態	多少人間の手が加わっている	人間が管理
触れ得た	148	125	3
何とか触れ得た	70	81	1
あまり触れず	15	15	2
殆ど触れず	6	4	0

$\lambda^2=5.56<$自由度9　$\lambda^2=16.915$（危険率5％）
$\lambda^2=21.666$（危険率1％）
有意差は認められなかった。

これも過去の経験と現在の期待との関連性を分析するものであった。とりわけ，過去における自然との接触は，現在のその人間の自然への期待に結実するかということの分析であった。しかし，自然の管理あるいは保護の状態に対する個々人の思いと，子供時代における自然との接触とには，やはり関連性は認められなかった。

(3)　質問8（出身地の自然環境）と質問10（都心部の住宅と郊外の住宅とのどちらを好むか）

	都心部の住宅	郊外の住宅
都市出身者	104	80
郡部出身者	57	145

$\lambda^2=31.75>$自由度1　$\lambda^2=3.841$（危険率5％）
$\lambda^2=6.635$（危険率1％）
有意差が認められた。

質問10は，「あなたは，交通の便は非常に良いが庭のない都心部の住宅と，広い庭はあるが交通の便は非常に悪い郊外の住宅のどちらがより好ましいと思われますか。」という質問であった。若者たちの48％は都心部の住宅を好み，52％の者は郊外の住宅を好んでいる。過半数が，生活上の利便性が高い都心を嫌い，郊外へと自らの居住空間を求めている。こうした自らが生活する居住空間の好みに対しては，過去の生活環境が影響していると認められる。過去の生活の中で形成された，人間の心の奥底に漂うイメージたる原風景が，成人後の居住環境に影響し続けると判断される。

(4)　質問8（出身地の自然環境）と質問20（好ましい自然状態）

	全くの自然の状態	多少人間の手が入っている	人間が完全に管理
都市出身者	92	85	3
郡部出身者	99	95	1

$\lambda^2=2.22<$自由度3　$\lambda^2=7.815$（危険率5％）
$\lambda^2=11.345$（危険率3％）
有意差は認められなかった。

個人の期待する自然の管理のあり方，保護の状態に対し出身地域の因子は関連性を持ってはいない。根本的な点での両者の関連性を調べようとしたものであったがそれは認められなかった。上記した(2)とも同様であるが，自然保護のレベルへの個人の期待と，過去の生活における自然環境とには関連性はない。

II．故郷との関連

(1)　質問2（自然環境の中に求めるもの）と質問11（故郷について）

	美しさ	心の安らぎ	日常生活の癒し	人間の手から逃れる
故郷なし	22	37	15	14
故郷あり	113	270	86	107

$\lambda^2=1.976<$自由度4　$\lambda^2=9.488$（危険率5％）
$\lambda^2=13.277$（危険率1％）
有意差は認められなかった。

この調査では66名の者が故郷はないという答えを行っている。しかし，こうした故郷がないとする者と故郷があるとする者との間に現在の自然環境に対する思い入れには差は認められなかった。子供時代における生活体験は，現在の自然環境に対する思い入れとはならないことが認められる。

(2)　質問7（子供時代における自然との触れ合い）と質問11（故郷について）

	故郷ないと答えた者	故郷あると答えた者
触れ得た	49	335
触れ得なかった	13	25

$\lambda^2=12.6>$自由度1　$\lambda^2=3.841$（危険率5％）
$\lambda^2=6.635$（危険率1％）
有意差が認められた。

(3)　質問8（出身地）と質問11（故郷について）

	都市出身者	郡部出身者
故郷ないと答えた者	38	19
故郷あると答えた者	143	251

$\lambda^2=19>$自由度1　$\lambda^2=3.84$（危険率5％）
$\lambda^2=6.63$（危険率1％）
有意差があると認められた。

上の(2)とこの(3)が明らかにしていることは，故郷の思いは子供時代における自然体験が大きな要因を成しているということである。都市という比較的自然が遠い場所と，郡部という比較的自然が近くにあるなかでの自然体験の質が，故郷への思いの大きな要因を形成している。

(4)　質問11（故郷について）と質問12（故郷に欠かせぬもの）

	良き人間関係	豊かな自然	子供時代にいただけ
故郷ないと答えた者	45	50	8
故郷あると答えた者	370	317	53

$\lambda^2=1.4<$自由度2　$\lambda^2=5.99$（危険率5％）
$\lambda^2=9.21$（危険率1％）
有意差は認められなかった。

故郷という言葉のイメージ化の中には，その土地での自然体験が大きな要因を成すとともに，家族・友人・教師との人間関係の豊かさも大きな要因となっている。故郷という言葉の中では豊かな自然と良き人間関係とが同じ程度の大きな重みを持ち，故郷という精神の土地に対する精神的郷愁の成立の必要な条件となっている。

5．分析結果

(1)　若者たちは自然を強く意識し，より純粋な，つまり人間の手が加わっていない本当の自然を強く志向している

人間生活からの癒しを求めて自然を求める若者たちのなかに，エコロジカルな意識が確認される。それは人工的な疑似的自然物に対する違和感と言ってもよい。

(2)　山・森，あるいは海というような規模の大きな自然物が好まれる傾向にある。

自然という言葉は人間とは異なるものであるという意識の中で，人間化された空間とは独立した異質な空間を形成している自然物が好まれる。

(3)　故郷を持たぬとする若者達の存在は，都市における自然との接触の少なさを象徴的に語っている。

質問11（故郷について）に対する全回答者419名中66名，全体の14.3％もの者が故郷が無いと答え，その多くは都市出身者であった。ここには子供時代における自然との触れ合いのレベルが関連している。故郷を持たぬとする人間を生むことは都市問題の一つと言ってよく，人間にとっての自然の豊かさと，豊かな自然との身近での接触が人間には不可欠であることを語っている。

(4)　子供時代における自然との触れ合いは様々な形での影響を持ってはいるが，自然に対する人間の意識は，子供時代の自然体験のみに還元しきれない多次元的背景を持っていると言わざるを得ない。

6．地域環境に対する提案

人工的な疑似的・代替え的自然物の社会環境

↓

こうした流れに対する人間の心の危機的現象：
・故郷を持たぬとする人間の多さ
・人間の技術的・人工的なものからの安らぎを自然の中に強く求める

↓

〝真のアメニティー性を与え，人間の心に豊かな安らぎを与える自然空間，つまり，高い自然性を保持し，人間を包み込むレベルの自然空間が都市環境に，生活の場所の身近な所に求められる〟

(調査内容)

Ⅰ．自然環境について

(1)　あなたはあなたの身近に豊かな自然があるとお思いですか。
(一つ回答)
1．豊かにある　2．多少豊かにある　3．あまりない　4．全くない

(2)　あなたは自然環境に対して特に何を求めますか。
(二つ以内回答＝一つか二つ回答)
1．美しさ
2．心の安らぎ
3．歩き回ることでの肉体の鍛練
4．山菜や海の幸など
5．日常生活の疲れを癒す
6．人間の手が入っていないもの
7．自然の持つ荒々しさ
9．何も求めない
10．その他（　　）

(3)　あなたは水辺環境(川・湖・沼・池・海辺)をどのようなものだとお思いですか，体験的にお答えください。
(二つ以内回答)
1．水遊びや水泳のできる場所
2．水鳥や小動物，虫のいる場所
3．水草の茂っている場所
4．魚釣りなどをして楽しむ場所
5．キャンプをする場所
6．洪水が起こったり人が溺れたりする危険な場所
7．眺めて楽しまれる場所
8．その他（　　）

(4)　あなたはコンクリート・ブロックによる河川改修工事が施された河川に対してどのような印象を持たれますか。
(一つ回答)
1．その工事によって河川の印象は良くなった
2．その工事によっても河川の印象は変わらない
3．その工事によって河川の印象は悪くなった
4．何も感じない
5．その他（　　）

→(4')〔1．を選んだ方について〕
印象が良くなったのはなぜですか。
(二つ以内回答)
1．水辺の風景がすっきりしてきれいになった
2．洪水が起こる心配がなくなり，安心感が得られるようになった
3．水辺の小動物や虫がいなくなり刺されたりする危険性がなくなった
4．子供が川辺に近づかなくなり溺れる危険性がなくなった
5．その他（　　）

→(4")〔3．を選んだ方について〕
印象が悪くなったのはなぜですか。
(二つ以内回答)
1．湿気を好む小動物や虫が見当らなくなった
2．コンクリート・ブロックが与える冷たい印象
3．水草が少なくなり水辺全体が荒れている
4．乾燥化が進み，湿地としての水辺という印象がなくなっている
5．河川が直線化されたため，ゆったりとした雰囲気を与えなくなっている
6．その他（　　）

(5) あなたは園内に小川のある公園と小川のない公園ではどちらがより好ましいと思われますか。
(一つ回答)
1．小川のある公園
2．小川のない公園
3．小川はあってもなくともよい

II．自然との触れ合いについて

(6) あなたが現在自然という言葉を意識し自然を実感するのは特にどれですか。
(二つ以内回答)
1．山　2．川　3．海　4．森　5．湖・沼・池・小川　6．公園・緑地
7．自宅や民家の庭　8．畑・野原　9．草花・木　10．小動物　11．昆虫
12．その他（　　）

(7) あなたはあなたの子供時代に自然に触れることが出来たとお思いですか。
(一つ回答)
1．触れることが出来た
2．多少触れることが出来た
3．あまり触れることが出来なかった
4．ほとんど触れることが出来なかった

(8) あなたがこれまで生活した場所の主たる自然環境についてお答えください。
(一つずつ回答)
a．0－5歳　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
b．6－10　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
c．11－15　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
d．16－20　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
e．21－30　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
f．31－40　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
g．41－50　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
h．51－60　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く
i．60歳以上　1．都市部　2．農村部　3．山がちの所　4．海辺近く　5．川辺近く

(9) あなたが子供時代に触れて印象深かった自然は特にどれですか。
(二つ以内回答)
1．山　2．川　3．海　4．森　5．湖・沼・池・小川　6．公園・緑地
7．庭　8．畑・野原　9．草花・木　10．小動物　11．昆虫
12．その他（　　）

(10) あなたは，交通の便は非常に良いが庭のない都心部の住宅と，広い庭はあるが交通の便が非常に悪い郊外の住宅のどちらがより好ましいと思われますか。
(一つ回答)
1．都心部の住宅が好い
2．郊外の住宅が好い

(11) あなたは〝ふる里〟という言葉から具体的にどの地を連想されますか。あなたが生活したことのある土地の中からお答えください。
1．あなたの出身地
2．出身地以外　道内→（　　）市・町・村（　　）
道外→（　　）県（　　）市・町・村（　　）
3．なし

(12) あなたにとって〝ふる里〟に欠かせないものは何ですか。
(二つ以内回答)
1．親子兄弟親戚が楽しく仲良く暮らすこと
2．友人教師に恵まれていること
3．全く自然のままの環境の中で暮らすこと
4．単に幼少期を過ごすということ
5．豊かな水辺が身近にあるということ

6．豊かな動植物が身近にあるということ
7．その他（　）

III．自然観について（漠然とした印象で結構ですので是非お答えください）

(13) あなたは自然は一度失われても再生させることは可能だとお思いになりますか。
（一つ回答）
1．再生は可能である
2．難しいが可能である
3．多少は再生可能だが完全ではない
4．再生は不可能である

(14) あなたは外国人と日本人とでは自然に対する意識が異なると思いますか。
（一つ回答）
1．全く異なる　2．多少異なる　3．全く同じ

(15) あなたは日本人の自然観は明治時代において変わったとお思いですか。
（一つ回答）
1．変わったと思う　2．多少変わった　3．変わっていないと思う

(16) あなたは明治時代後にも日本人の自然観は変わっているとお思いですか。
（一つ回答）
1．変わっている　2．変わっていない
→(16')〔1．を選んだ方について〕
変わったと思われる時期をお答えください。
（二つ以内回答）
1．大正時代　2．第2次世界大戦前後　3．昭和30年代（1955～64年）
4．昭和40年代（1965～74年）　5．昭和50年代（1975～84年）
6．昭和60年～（1985年～）
7．その他（　　）

(17) あなたは明治期における北海道の大自然との出会いは日本人の自然観に影響を与えたとお思いですか。
（一つ回答）
1．大きな影響を与えた　2．多少は影響を与えた　3．影響はない

(18) あなたは日本の風土に欠かせない自然環境は特に何だとお思いになりますか。
（二つ以内回答）
1．山　2．川　3．海　4．森　5．湖・沼・池・小川　6．公園・緑地
7．田んぼ　8．畑・野原　9．小動物　10．昆虫　11．草花・木
12．その他（　　）

(19) あなたは〝日本的自然風景〟という言葉から日本のどの土地を連想されますか。
（三つ以内回答＝一つか二つか三つ回答することです）
1．京都　2．奈良　3．伊勢　4．広島　5．吉野（奈良県）　6．大阪
7．東京　8．金沢　9．岩手　10．松島　11．軽井沢　12．瀬戸内海
13．日本アルプス　14．北海道　15．美瑛　16．その他（　）

(20) あなたにとって〝自然のままの自然〟と〝人間の手により維持管理された自然〟とではどちらがより好ましいですか
（一つ回答）
1．全く自然なままの自然
2．多少人間の手が入っている自然
3．人間の手によって完全に維持管理されている自然
4．その他（　）

IV．あなたご自身について

(21) あなたの性別
1．男　2．女

(22) あなたの年齢
1. 19歳以下　2. 20歳代　3. 30歳代　4. 40歳代
5. 50歳代　6. 60歳代　7. 70歳以上

(23) 現在の居住地はどちらですか。
1．札幌市→（　）区（　）
2．道内→（　）市・町・村（　）

(24) 現在の居住地に何年前から住んでいますか。
1. 1～5年前から　2. 6～10年前から　3. 10～20年前から
4. 21～30年前から　5. 31～40年前から　6．生まれた時から

(25) あなたの出身地はどちらですか。
1．現在の居住地
2．現在の居住地と異なる場合
a．札幌市→（　）区（　）
b．道内→（　）市・町・村（　）
c．道外→（　）県（　）市・町・村（　）